1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　SSKU　増刊通巻第 5605 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3902-9996

http://www.wakuwakukan.net/

SSKU わくわくかん リボン便り

2016 年 11 月号 No. 188

シャケ Zo くん

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

精神障がい者の雇用需要は年々増加しています。その背景には、企業の障害者雇用率 2.0％を達成義務があること、そして 2018 年度には企業における精神障害者雇用義務化が始まることがあります。一般状況と NPO 法人わくわくかんの取組みを比較してみました。

増える精神障がい者の雇用需要と課題

当法人 NPO 法人わくわくかんでも傾向は同じで、今年度の就労支援センター北の就職者数が既に昨年同期の就職者数を超え、さらに就労移行支援事業リボーンプロジェクトでも半年で 8 名の方が就職をしています。

そこで、重要視されるのが、障がいをお持ちの方の「就労定着」になります。厚生労働省が発表した精神障がい者の離職率をまとめると、直近 5 年間、就職後 1 年の間で体調不良や職場の人間関係などの理由で約 44％の方が退職しています。これは身体障がいの 12％や知的障がいの 9％に比べて圧倒的に高くなっています。今年度より全国の就労移行支援事業所に対し、就労定着の強化を意識した給付体制が整備され、さらに 2018 年度には就労定着に特化した事業所の整備が予定されています。職場内定着支援者の育成（企業在籍型ジョブコーチ等）も強化されており、精神障がい者の就労を職場内から安定できるような仕組みが強化されてきています。

離職多い中「就労定着」75％

一般の離職率 44％、わくわくかんの離職率 25％

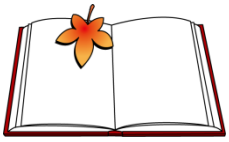
当法人の就労移行支援事業リボーンプロジェクトの就労定着状況は、事業所開所から 2015 年度の 5 年間で事業所を卒業し一般企業や特例子会社に就職された人の総数が 21 名となっています。その中で就職後 1 年以内に離職した人数は 5 名なので、約 75％以上の人が 1 年以上就職しつづけることができています。

次に就労定着支援の方法ですが、どのようにするかは移行支援事業所によって違います。卒業後、事業所職員が定着支援を行わないケースや通所時の担当職員と就労定着の職員を分けて担当するケースがあると聞いたことがあります。しかしわくわくかんの定着支援の取り組みは、最低でも卒業後 3 年間、通所時と同じ職員が引き続き定着支援の担当をします。さらに月 1～2 回程度の職場訪問や月 1 回事業所内面談、電話相談、年 2 回の OB 会開催などがあります。通所時に担当していた職員が就職後もサポートすることで、企業側へはご本人様の得意・不得意の作業スキルはもちろんのこと、体調変化のきっかけ、性格、人柄も理解した上での連携をすることができます。

また、ご本人様にとっても不安なことや悩みがあったときにすぐに相談しやすくなるため体調悪化を防ぎ、すぐに職場への調整を相談することが出来ます。事業所職員の仕事量や負担は大きくなるのですが、企業にとってもご本人様にとっても安心して就労を継続できることが大切ですので、それぞれの視点や気持ちに寄り添える就労定着支援を目指しています。

＜わくわくかん 11 月予定表＞

- ✧ 11 月 1 日（火）北区就労支援事業所連合会 16:00～ 岸町ふれあいかん
- ✧ 11 月 11 日（金）～13 日（日）＜第 3 回生困者自立支援全国研究交流大会＞　川崎市教文会館、慶応大学日吉
- ✧ 11 月 12 日（土）はたらっくす16:00～　自立訓練室
- ✧ 11 月 28 日（月）現場協議会16:30～　スカイブリッジ
- ✧ 11 月 29 日（火）家族懇談会16:30～　自立訓練室



1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5605 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

～豆乳シチュー～

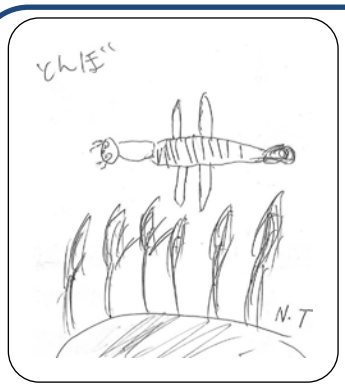
【４人分】

生鮭----------4 切れ
里芋----------280 g
玉ねぎ----------120 g
しめじ----------適量

【作り方】

① 鍋にオリーブ油（小さじ 2）を引き、適当な厚さにカットした里芋、スライスした玉ねぎ、バラしたしめじを炒める。
② 薄力粉をまぶし（小さじ 4）弱火で更に炒め豆乳（400 cc）を少しずつ入れていく。
③ 水（600cc）を入れ、塩・コショーで味つけする。
④ 一口大のそぎ切りにした鮭を入れ沸騰させないようにしながら、火が通るまで煮込む。
⑤ 器に盛り、小口切りにした、あさつきを乗せて完成！

里芋
８月下旬から１月くらいまでが旬です。肥満・便秘・高血圧の予防や、疲労回復・消火促進・潰瘍防止・活力強化等の効果があります。



障がいを持つ方の働き方には、一般企業などで働く（一般就労）と障害福祉サービスで働く（福祉的就労）の二通りあります。更に、福祉的就労には就労継続支援 A 型と就労継続支援Ｂ型と二つ制度があります。Ａ型もＢ型も利用期限の制限はありません。

就労継続支援Ａ型は、障害者福祉サービスではありますが、雇用契約を結び最低賃金を給与として支給される働き方です。Ａ型を利用したいという方は、一般企業で働くには何らかの不安がある方で福祉的な配慮を受けて働きたいという方が多いです。また、Ａ型から一般企業に就職したいという方も利用でき、就職をサポートするのもＡ型の役割です。

わくわく配食サービスでは、お弁当を作り配達し収益を上げて働く方の給与にしています。長く働いている方が多いですが、何人かの方は一般企業で働くことを目指しています。配食サービスは、精神障がいの方が多く働いているので働くことでのストレスや病状の変化などが把握でき、ある程度対処方法を検討することが可能です。また、得意なことを伸ばし不得意なことはどう対処すれば良いか検討するなど働く準備をしています。

最低賃金を給与として

＊**就労継続支援Ｂ型**は、賃金（毎日通所して月に３千～３万程度）を支給されます。働く場所というよりは、昼の活動場所の意味合いが大きいです。就労移行支援などを利用して一般企業へ就職を目指すことも可能な制度です。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5605 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F TEL 03-5963-6888

音楽プログラム　なのに特訓中！

音楽プログラムは、カラオケ・音楽鑑賞を楽しむプログラムです。前半は、皆さんが持ちよった CD などを鑑賞します。後半は、カラオケを楽しみます。

今月からは、ある物を使った演奏を始めました。初日は、皆、困惑しながらスタッフの指導のもと、演奏の練習をしました。それぞれがパートを持って演奏してますが、なかなか、そろわないので、だんだんスタッフの指導にも熱が入っていきます。時にはそろうこともあって、音色がきれいな事もありますが、まだ半分くらいな状態です。

皆さんにご披露する時にはきれいな音色で、皆さんに聴いてもらいたいです。完成まで楽しみにしていて下さい。(F&K)

犬さんの似顔絵コーナー

この女性は誰でしょうか？
答えは来月号です！

10 月号
の答え☞

実習に来た
看護学生の
真太郎です！

「周囲で支えてくれた人達への感謝の気持ちと これからの自分にできること…」

病気で働けなかった時に、生活保護の制度により、生きてこられましたので、社会に復帰して、少しでも、納税して、これ迄の、御恩返しが出来るようになりたいです。又、身近な方々へは、僕が元気よく暮らしている様子をご覧いただいて、安心させたいです。後は個人的な希望ですが、両親の目の黒いうちに、孫の顔を見せられることができれば、うれしいです。

ひびきメンバー(Y.T)

❤外出プログラム報告❤「上野」

今回は、上野に決まりました♪みんなで王子から出発！！行き先は、国立西洋美術館と国立科学博物館です。国立西洋美術館は、「常設展」を見ました。宗教画が多くありました。彫刻もありました。モネの絵やピカソの絵が印象的でした。そして昼食は、２班に分かれて、中華屋さんとラーメン屋(つけめん舎鈴)に行きました。味玉つけめんを食べて、おいしかったです。食後は、休けい(お茶タイム)をしました(^-^)。食後のソフトクリームは最高でした。その後、国立科学博物館に移動して、「海のハンター展」を見ました。マグロやクエがおいしそうでした(笑)カルカロドン・メガロドンが大きくってこわかったです。シロクマの毛にさわれて、良かったです。これで、今回の外出は、終了しました。楽しかったです♪

ひびきメンバー(S&I)

クッキングプログラム報告♪

ピーマンとマヨ味の豆腐詰めをつくりました。まず、ピーマンを半分に切って、豆腐の水分をぬきました。その中でも、ピーマンを、スプーンでつめるのが少し難しかったです。そして、ホットプレートでピーマンと、具を焼く時、ひっくり返すのが大変でした。最初は、難しい料理だと思いましたが、簡単でおいしくて良かったです。余った豆腐で豆腐ハンバーグも作りました。その他、ピラフに、なめこ汁に、みそ田楽があってこの日のクッキングは、予想以上にボリュームがありました。

ひびきメンバー(O.T.H)

1998年10月9日第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2016年11 月 13 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5605 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

講座・模擬企業

〒114-0032　東京都北区中十条１－２－18
北区障害者福祉センター４Ｆ　Tel：03-5963-6888

就労して半年が経って…　通勤電車・健康・文化の違い

早いもので、私がわくわくかんを卒業=就職してら半年が経ちました。お久しぶりです。就職してから半年ということで「何か書いてくれ」という仰せがあったので多少書いてみます。なおこの文章は、通勤中の iPhone と自宅の Mac の両方から入力する、所謂「クラウドコンピューティング」の手法で行なっています。前置きが長くなりましたが、本題に移ろうと思います。

まず何よりも大切というか、前提になって来るのが「通勤電車に慣れる」ということです。何をそんなと思われる方もいらっしゃると思いますが、これが結構しんどい事でして、私自身、今現在、椎名町→池袋→巣鴨→三田というルートで通勤しています。就職先が身近にあるケースはほとんどないでしょう。ですから、ある程度は想定と覚悟が必要となってきます。これに慣れないと、選択肢の幅をかなり狭めないとならなくなってしまいます。次ぎに大切なのが「健康」です。意外にこれも盲点で就職が「ゴール」ではないという事です。就労は続ける事が大切で休みがちだと、印象が、悪くなって、最悪、就労継続が困難と、相手に思われてしまうかもしれないのです。そこまで行かなくても、給料が減ったり定期を買ってる場合はその分、損をする事になります。自信がない人は、今の内から早寝早起きをするなど前もって準備するのがよいでしょう。私も夜９時に寝て、朝は６時半に起きるようにして、今も実際そのリズムでやってます。

次に大切なのが「文化の違い」です。わくわくかんには一応「模擬企業コース」があるのですが、実際の現場とはちょっと違うところがあるので、その細かい違いを肌で感じ、若干の違いにチューニング出来るかどうかと言うことです。かく言う私もここで若干の苦労をして１ヶ月程合わせるのに時間がかかりました。企業企業（または作業所やなにかしらの法人）によって作法や言語、そうしたもろもろの文化があります。こればかりは馴れていくしかないので、時間が掛かっても馴れて下さい。やれば必ず出来ます。また部署によっては電卓や定規、そうしたもろもろの文具を使う場面がありますので、わくわくかんに居る内にそうした文具一式には馴れておきましょう。

最後に、私はこれから 17:30 まで働く事になります。朝は 9:45 からです。ほぼフルタイムです。わくわくかんに居た頃は結構遅刻や休みを獲ってたので、かなりの進歩です。やれば出来るのです。主治医と相談しながら出来る限りの事をしてみてください。きっと道は開けるでしょう。人の言う事はよく聞き、出来ない事は練習し、苦手なことは相談し、それぞれの方法でスタートラインに立ってみてください。きっと道は開かれる事でしょう。

（S・H）

身だしなみ講座

化粧品会社、資生堂の担当の方によるマナー講座。10 月 11 日、リボーンプロジェクトと響の合同で男女に分かれて実施され、初めての体験者も多く、感想を聞きました。

＜男性＞

①洗顔　洗顔フォームにて洗顔の実践／②顔の手入れ　乳液保湿液及びパックの実践（ローションマスクシート）／③頭皮の手入れ　育毛トニックスプレーによる実践／④ヘアスタイリング　ヘアワックス等によるスタイリング／⑤体の手入れ　デオドランドシートによる体感／他、ひげそり等のアドバイス

☆専門家による研修をさせて頂きました。マニュアルの説明を聞くだけでなく、各項目ごとに、各自が実践をして体感しました。清潔は心がけていても、男性化粧品一式を持っているわけではないので、勉強により良い経験になったと思います。

☆特に印象に残ったのは、髪型の整え方です。資生堂の方に直接整えていただき、見ための印象ががらりと変わりました。講座の後、皆さんにほめてもらって気分が良かったです。（H）

☆普段、何気なく行っている身だしなみの整え方について、適切な整え方や整える時に便利な道具など、学習する良い機会になったと思います。この講座内容の中で、日常生活に取り入れられるものは何か考え、実践していきたいと考えました。（S）

☆自分は今まで気にしていなかっただけではなく身だしなみの方法や仕方も知らなかったので参加できていい経験ができたと思います。（H）

☆今日は自分があまり興味なかった話だったので最初は難しいところもありましたが話が進むにつれて引き込まれるようのめりこんで行きました。１つ洗顔のコツを教えていただいたのでそれを実践してマスターしたいと思いました。（K）

☆洗顔やひげそりで知らなかったことや間違って使用していたことがあったので大変勉強になりました。また、響の皆さんとも交流が深められました。（H）

＜女性＞

①肌のケアについて（自分の肌にあった化粧水の選び方）／②下地、ファンデーションの塗り方／③眉毛の整え方／④アイシャドウの塗り方／⑤マスカラのつけ方／⑥口紅の塗り方／⑦頬紅の塗り方

☆化粧の仕方は自分では出来ているつもりだったけれど、ファンデーションの塗り方に順番があったり、色の種類があったりと初めて知るようなことも沢山ありました。これから化粧をする時は、今回の講座で学んだことを生かして、自分に合ったメイクを研究していきたいと思います。（Y）

☆普段、やらないメーキャップ（頬紅など）をしたりして、とても勉強になりました。目をきれいにみせる方法など今後、役立てたいと思います。（T）

☆和気あいあいで楽しくメイクができ、とても良い時間が過ごせました。講師の方がみなさんをほめる際に「若い」という言葉を使用していたので少々気になりました。（T）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　SSKU　増刊通巻第 5605 号

ヘルパーステーション　わくわくかん

法人事務局めぐり

ヘルパー会議で＜就労＞を議論

ヘルパーステーションわくわくかんは、障がいを持っている持っていないに関わらず、ヘルパー資格を取得した皆さんが登録ヘルパーとして活躍している事業所です。月に１回、皆で集まってヘルパー会議という名のミーティングを行い、意見交換をしています。

ヘルパーさんは通常一人で支援に入る為、スタッフ同士の関わりがありません。月１回のヘルパー会議は、それぞれの悩みなどを皆に相談できる、貴重な場となっています。9 月のヘルパー会議では、「りぼん便り」から『就労について』というお題を頂いたので、皆で話し合ってみました。

【９月ヘルパー会議参加者の紹介】
- **利用者さんの笑顔がパワーの源、Ｍさん。**
- **何気ない一言で場を和ます天才、Ｔさん。**
- **どんな困難もハングリーパワーで乗り切るＳさん。**
- **皆のまとめ役Ａさん。**
- **我らがリーダーＦさん。**
- **片づけ支援ならお任せＮさん。**

ヘルパーを志したきっかけは？

―経験の延長線上で福祉の仕事に―

●Ａさんの場合

人が好きだから。わくわくかんに入る前、３年間営業事務をやった。その後、医療事務で病院の受付をしていた時に、患者さんやいろんな方と接する機会が多く、その経験が自分の幅を広げてくれたので、延長線上で福祉の仕事をするようになった。

支援者に自己覚知というのがあって、自分を知る事にも繋がる。まさにお互いさまですよね。両親が高齢になって、自分の家族がお世話になる立場にもなるしいずれは自分がそうなるかもしれない。

―ガイドヘルパーで人の役に立てて―

●Ｔさんの場合

ヘルパーをやるまでは、普通の仕事をやっていて、身体がついていかなくなった。10 年前にわくわくかんの講座で、ヘルパー資格を取得し、資格あっても使わないんじゃもったいないと思って。ガイドヘルパーの支援はすごく難しかったが嫌いじゃない。こんな私でも人の役に立てるのが、嫌じゃなかった。

●Ｓさんの場合

資格が取りたくて、わくわくかんのヘルパー講座で取得した。針とか灸とか他の資格は難しそうだったけど、人の役に立てるのが良いなと思った。支援が終わって帰る時、利用者さんが笑顔で「ありがとうございました。また来るの？また来てネ！」と歓迎してもらえたのが嬉しかった。

T:（利用者さんから歓迎されるくらい）人を惹き付けるのは良い事ですね。私は若い頃、人を除外してしまっていた。私は障がい者だからと思って馴染もうとしなかった。仲間が何か言われて落ち込んでいた時、何て声かけて良いか解らなくて、慰めることを諦めてしまった。

A:無理に声を掛けるよりも素晴らしい対応だと思います。Ｔさんみたいな配慮を持ちたい。

ヘルパーを通して

M：やりがいある支援が出来、勉強させてもらえることが多い上、お金までもらえる。

F：でも、働いているうちにその有難みが薄らいでしまっているのを感じる。

M:仲間の支援をするというスタンスで支援に入っているので、ある利用者さんの家族から、先生として接して欲しいと言われたけど、やはり意識は仲間。

F：この仕事をやっていて一番楽しい瞬間は、**一体感を感じられる**とき。わくわく配食サービスで勤務していた時は、いつも感じられていた。

M：利用者さんの感謝の気持ちがやりがい。

F：ヘルパー会議で皆集まれる時、同じ議題で話せるのが嬉しい。

M:わくわく配食サービスのミーティングはいつも盛り上がっているもんね。

F：GH の入居者さんでボランティア活動やっている時、お昼皆で一緒にご飯食べる瞬間が楽しい。皆ファミリーみたいな感じで良い瞬間。

A：仕事に関係なく、隔たりが無い時、一体感を感じる。福祉に限らず、共感し合える事があるのが、社会に関わるという事かもしれない。一人の人間として心が触れ合った瞬間が嬉しい。

N：福祉の仕事は、感謝されたり、嫌われたり、自分の主観に振り回されがちになってしまう。そうならない為にも、あくまでも障害者総合支援法の**居宅介護計画書に沿って**業務に従事している感覚を忘れてはいけないと最近実感する。感謝される事がやりがいになってしまうと、仕事に対し、好き嫌いが生じてしまう。

F:居宅介護計画書をちゃんとツールとして利用する事も大事ですね。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　SSKU　増刊通巻第 5605 号

第７回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時:　2016 年 11 月 29 日（火）16:00～17:00
場　　所：　障害者福祉センター　４階　自立訓練室
内　　容：　障がい者就労について　～当事者からのお話～
個人面談:　※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先：　TEL　03－5963－6888　FAX　03－3906－9997

「人事交流研修」

10 月 11 日（火）~12 日（水）に、わっぱの会との人事交流研修に行ってきました。全部で 7 カ所の見学・体験でした。

ベーカリーハウスわっぱん平安　パンの製造・販売の共働事業所で、障がいの有無に関係なく、それぞれがご自分の分担を責任を持って行っていました。福祉的就労ではないので、全ての売り上げが収入に跳ね返ってくるため、モチベーションが高いという事でした。

なごや障害者就業・生活支援センター　ご本人の「働きたい」という願いを叶えるため、どんな方でも受け入れ相談に乗っている事、他機関の支援が必要な場合にはそこへ繋ぎ、「駆け込み寺」のような機能を果たし、「働けない人は居ない」というモットーで支援を行なっているとのことでした。

生活援助ネットワークの活動　わっぱの会には「生活共同体」という、障がいがある方も無い方も一緒に暮らす事が出来る「家」がいくつもあります。そこでは障がいがある方が親元を離れて自立生活を送っていますが、生活をするための支援が必要な場合にヘルパーを派遣している事業が生活援助ネットワークで、入居形態や入居者の状況に応じてあらゆる制度を併用して支援を行なっていました。画期的だったのが、制度では補えない時間帯や支援内容については、入居者や介助者、理解者から出資を募り、その出資金をプールして、いわば共済の仕組みでヘルパーの自費利用としてカバーしているそうです。ご本人の自立生活を叶えるための素晴らしいアイデアです。ヘルパーとして就業している方も、当事者の方が多いとの事でした。

わっぱの会の活動と運営　4 法人でメンバーは約 250 名、収入は分配金として均等に分ける事(労働時間の長短で多少差は有)、生活状況に応じて生活加算金を付けている事等の説明を頂きました。長く関係される方が多いため関係者の高齢化に伴い、高齢者分野への進出も視野に入れているそうです。

ワークショップすずらん　パン作りの見学・体験。ここも共働事業で、それぞれの分担業務に責任を持って取り組まれていました。パン生地を丸める作業に参加、結構難しくみなさんの様子にプロを感じました。

東水切の生活共同体　3 階建ての新築物件で一般のマンションのようです。世帯向け一般住宅とシェアハウス、グループホームの機能が入っており、全てバリアフリーの注文住宅。全員が集まれるリビングの他、クローゼット備え付けの 6 畳の各個室では、しっかりとプライベート空間が守られていました。中ではちょうど**生活援助ネットワーク**から派遣されたヘルパーさんが清掃中でした。家賃は生活加算金を使えば月額 7,000 円の家賃+生活費で住む事が出来るため、入居者の方は収入や分配金が手元に残る仕組になっているそうです。

なごや職業開拓校と直営店舗の則武家うどん店　訓練生の方に接客を頂きうどんを頂きました。シコシコの歯応えの自家製麺に出汁の効いたつゆが絡んで、美味しかったです！盛りも美しく良心的値段で、一般のお客様で賑わっており、職業訓練とは思えない程本格的なお店でした。

わっぱリサイクルセンター　名古屋市からの委託業務で発泡スチロールとペットボトルのリサイクル工場があり、今回は後者を見学・体験。市の一般家庭から出るペットボトルの約 2 割(1 日に約 3ｔ)を処理、ほとんどが手作業である事に驚きました。かなりの重労働でした。ここでも共働で、障がいの有無関係なく一緒に仕事をされていました。（K.H）

共生・共働の場であったわっぱの会

則武家うどん

リサイクルセンター

10 月はたらっくす報告

10 月 8 日（土）にはたらっくすが行われ、3 名の参加でした。働く準備をしている方や、今、一生懸命に働いている方が集まりました。最近、私がヘルパーの仕事上で判ったのは、その人その人の仕事上のシチュエーションが判らないと、その行動を軽々しく批判は出来ないのかな、という事です。ある方の A という行動に対して一般常識で対応して批判しても、その方の置かれている状況で、逆にその行動は極々全うかもしれません。特にヘルパーは人間対人間のお仕事なので、相手の立ち位置をいつも意識していなくてはいけない、と痛感しています。次回のはたらっくすは、11 月 12 日（土）の 16～18 時にわくわくかんで行われます。働いている方と、働きたい方が対象の就労ミーティングです。時間内でいつ来られても、いつ退席されても自由ですので、あなたも是非気軽に参加して下さい。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　SSKU　増刊通巻第 5605 号

熊本大地震と「こころをつなぐよか隊ネット」

熊本大地震の直後、民間支援組織ネットワーク＜被災地障害者センター＞が立ち上がり、共同連全国大会でも議論されましたが、生協を中心に生まれた「こころをつなぐよか隊ネット」について、事務局長代行の奥田知志さん（公益財団共生地域創造財団代表理事）が『参加システム』9 月号に特色ある支援の様子を紹介、ズームインしてみました。

行政の支援や制度から漏れている人々にあえて偏る、できないことはあやまる

前例のない事態の中で支援活動は開始された。4 月 18 日午前 8 時、混乱の中、地元で困窮者支援や環境問題、地域の孤立者支援、子ども支援、東日本大震災被災者支援などの活動をしてきた 5 つの団体が集まり会議がもたれ、翌 19 日「こころをつなぐよか隊ネット」（以下、「よか隊ネット」）は発足した。

地域外の支援組織が被災地で活動することは大切だが、復興は単なる復旧ではなく震災というつらい経験を機に、新しい地域社会の構築がその目指すことである。よって、その地域で活動している各団体が、その専門性と地域とのつながりを活かし支援を展開することが重要だと考えた。

最も小さくされた人々に偏った支援を行う

確認された活動理念は①最も小さくされた人々に偏った支援を行う、②できないことはあやまる、③震災前から実施されていた地元団体の活動を基本としつつ活動する――。「最も小さくされた人々」とは、「行政の支援や制度から漏れている人々」を意味する。公平性の担保が求められる行政型の支援ではなく、「必要とされている支援を届ける」ために、「あえて偏る」ことを確認した。しかし、一方で「偏る」あるいは「偏らざるを得ない」という現実は、「全てはできないという現実」と認識することから始まる。マンパワーや資金に限りがある中で責任をもって「偏る」ために、「できないことはできない」と明確にする必要があった。「ごめんなさいとあやまる勇気」が必要であったのだ。

「よか隊ネット」が目指す「地元中心」は、震災によって起こった問題に対処するのみならず、震災以前からその地域社会にあった問題や課題に対応できる、新しい地域づくりのための市民活動ネットワークを構築することである。復興は、かつての日常に戻ることではなく、震災を経験した者たちによる新たな日常の構築である。行政のみならず、実は市民組織側も「縦割り」の現実を抱えていることが多い。貧困の課題に取り組む NPO は、その範疇の対象だけと出会い、関係団体とだけ付き合う。子ども支援の団体もしかりである。しかし、当然一人の人の中には多様な課題が存在し、また、その人に留まらず、その家族や関係者の課題を包括的に対応しなければならないことが多い。今回の「大地震」という悲劇の中で、これまで出会ったことの無かった地元団体同士が出会い、連携、協力、協働のステージを創る。例えば、子ども食堂をしていた団体は、参加する子どもの中に発達障がいを抱えた子どもがいることに気づくが、なかなか専門的ケアができないでいた。

「よか隊ネット」には、発達障がいのグループがおり、メンタルケアのグループ、フードバンクを運営している団体もいる。それらがつながることによって、これまでカバーできなかった課題に包括的に対処できることとなる。そのようなネットワーク組織の存在が「次の災害への備え」となり、同時に「既に日常化した災害状況（貧困や格差、差別など）に対応するための日常的な働き」となる。「よか隊が目指すものは、市民組織が相互に協働するネットワークを構築するによる新しい共生型地域の創造である。

5 つの団体からスタートした「よか隊ネット」は、8 月末 75 団体が参加するようになった。当初、物資配布、炊き出し、相談支援などから始まった活動であるが、その後今回の震災において大きな問題となった「車中避難者」の実態調査を実施。現状を県と市に届けた。車中避難者の 8 割が行政からの接触は無かったと回答し、完全に行政が実施していた支援の枠組みから零れ落ちていた現実が浮き彫りとなった。その後現在にいたるまで、車中避難者や公園等でテント生活している人々への巡回相談支援を実施している。さらに加盟団体への活動支援として、全国から寄せられた寄付金をもとに「活動助成金制度」を創設し展開している。情報プラットホームをつくり、各団体の活動に対して相互に協力できる形となっている。また、震源地であり激震地である益城町で被災され、「借り上げみなし仮設」に避難されている 1,500 世帯に対する伴走型訪問支援事業の受託に向けた準備に入っている。

名古屋でアジア障害者交流会議

第 1 回アジア障害者交流会議が 10 月 22 日～24 日にかけて名古屋市で開かれた。記念講演は佐藤紘毅氏（市民セクター政策機構主任研究員）の「イタリア社会的協同組合の源流と現状」があった。今回の集まりは、①各国の社会的企業（社会的事業所）の制度、運動状況、②これまでの交流のふり返りとこれからの交流の進め方に力点を置いて開かれた。報告は日本：齋藤縣三共同連事務局長、韓国：キム・ジョンヨル（障碍友権益問題研究所元所長）、フィリピン：リチャード・アルセーニョ BBMC ビガイ・ブハイ多目的協同組合、中国：リチュンジャ吉林省延辺朝鮮族自治州残疾人連合会、台湾：張英樹勝利財団らが参加した。またさらにアジアにネットホークを拡げる声明文を作成した。その後、セントラルキッチン（春日井市）とわっぱの会（名古屋市）の各社会的事業所を見学した。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2016 年 11 月 13 日発行　SSKU　増刊通巻第 5605 号

共同連全国大会（大阪）のテーマ
「めっちゃ　ごちゃまぜ　ええやんか！」に思うこと

日本は古くから地域の相互扶助による「お互いさま」の気持ちを持って支え合いながら生活してきたが、戦後の高度成長期を迎えると、高齢者や障がい者、子育て世帯の支援を地域社会ではなく行政が福祉サービスとして担うようになった。戦争による障がい者、孤児、貧困者の対策から始まり、福祉施設や給付金の制度など、その時代のニーズに合わせて分野ごとに整備されてきた。

福祉制度は近年、行政が提供する措置制度から利用者が自らサービスを選択する仕組みへと変わってきた。また、可能な限り住み慣れた地域で生活するべきであるというノーマライゼーションの考え方が普及し、サービスの充実が図られてきた。さらに、民間企業や非営利団体、住民団体など、サービスの供給主体は多様化している。このように、個人を尊重し、地域の中でその人らしい生活ができるように支援するという考えで、施設から地域への移行が進められている。

福祉分野ごとに分けられている
公的なサービスへの風刺と対抗

しかしながら、地域社会の変容や住民の意識の変化、社会的排除のされやすい者の存在など、多様となったニーズに対して公的な福祉サービスでは全てに対応することは不可能であるということが明らかになっている。そのためには、誰もが基本的人権を有する個人として尊重され、共に生きていくことのできる社会をつくり、地域社会において新たな共助のシステムの構築が必要とされている。今回テーマとなった「めっちゃ　ごちゃまぜ　ええやんか」には、福祉分野ごとに分けられている公的なサービスへの皮肉や偏見・差別なく、お互いを理解し認め合って生きていこうとする想いが込められている。　（M）

★カットは電動車イスで大活躍の大阪実行委員長の井上康さん。豊中で障害者 13 名、健常者 5 名でパン・クッキーの製造と販売の責任者。ヘルパーを使いながら施設を出て暮らす。井上さんの話が『障害者から見た「共に生きる」とは』が日本スローワーク協会から発行された

就労支援センター北わくわくかん

登録者　（2016 年９月末）　623 名
就職者　４名（事務２、製菓・軽作業１
　　ベットメイキング１）

先月　ご協力いただいた皆様

・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉障害者センター・熊本センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・ハローワーク王子・池袋・東京障害者職業センター・東京都精神障害者家族連合会・認定 NPO 大阪精神医療人権センター・NPO 法人こらーるたいとう・全国「精神病」者集団・NPO 法人 DPI 日本会議・韓国京道畿道協同組合協議会・資生堂・戸田中央看護専門学校・社会福祉法人ドリームヴィ・NPO 法人飛鳥会・東京アドヴォカシー法律事務所・(社福)東京コロニー東京都大田福祉工場・一般社団法人ローランズプラス・（株）ECA・東電ハミングワーク株式会社・社会的企業研究会・株式会社社会評論社・わっぱの会

他多くの方にご協力いただきました。

グループホームわくわくかん

グループホームわくわくかんは、男性１名、女性３名の方が入居中です。先月大阪で行われた共同連全国大会の参加は、GH の年間行事の一つになっています。今回も、女性入居者 I さんと男性 OB の S さんが参加しました。毎年 I さんが参加している第９分科会では、今年初めて詩作を披露。わくわくかんでは定評がある I さんの詩。ファシリテーターの松本さんも大感動！翌日の分科会報告では詩が朗読 され、その名を 全国にとどろかせました。一つ残念なのは、ペンネームのウッドッペッカーではなく本名で発表されたこと。I さんはずっとその事を愚痴っていましたが、その顔はどこか誇らしげでとても嬉しそうです。次回作を期待していますね！

▼編集後記▼

話がつながってうれしい出来事があった。大阪・芦原橋の A ダッシュ創造館で開かれた共生型経済推進フォーラムの GESF モントリオール大会報告会で津田直則理事長は、社会的経済を進めるモンブラン会議は連帯経済に力点を置き、貧困にあえぐ南アメリカなど途上国の参加が多く、アジアから生まれた新たな潮流は韓国ソウルより発信され、それら２つの流れがモントリオール国際会議でつながったと報告した。共生型経済推進フォーラムはフランスのティエリー・ジャンテ招請を東京での研究者中心としたフォーラムだけではもったいないと、反差別の実践活動の豊富な大阪と排除にあう地域として水俣で開催した経緯があるだけに、その企画を担当したものとして感慨深かった。当時はジョン・ホプキンズ大学の PT が「協同組合は利潤を分配している」と主張し、非営利組織から排除した時代。近畿生コン関連協同組合理事長の増田幸伸さんとアジェンダ・プロジェクトの松田舞さんに続いて、韓国で協同組合が９千近くも生まれる状況を、私も「アジアの社会的経済」報告としてさせてもらった。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）